第25回 鹿児島大学 奄美群島 島めぐり講演会

会場　奄美市アマホームPLAZA中多目的室
日時　2024年11月23日（土）午後1時～2時半

奄美の貴重な農業資源であり奄美の文化的多様性も示す在来カンキツについて、その専門家が講演いたします。多くの方のご参加をお願いいたします。

奄美の宝、在来カンキツ

山本雅史（農学部教授　国際島嶼教育研究センター長兼務）

奄美群島では固有のシィクワーサー類、海外から導入されたクネンボやダイダイ、それらを親として発生したカーブチー（喜界ミカン）、ケラジミカンなど、貴重な在来カンキツ遺伝資源が自生し、栽培されてきました。これらは単なる農作物ではなく、奄美の風土を形作る文化資源としての価値も高いものです。

講演会では在来カンキツがどのように誕生したのか、これらの貴重性や特長などに加えて、近年明らかになった健康維持・増進作用について発表します。また、奄美の主要カンキツのタンカンについても最近の知見を紹介します。

参加費無料で、**定員は60名**です。定員超過の場合には事前申し込みの方だけ参加できますので、なるべく事前にお申し込みください。

問い合わせ・申し込み先：氏名とメールアドレスをお伝えください
鹿児島大学国際島嶼教育研究センター　Tel 099-285-7394
メール shimaken@cpi.kagoshima-u.ac.jp

主催：鹿児島大学国際島嶼教育研究センター　後援：奄美市　奄美群島広域事務組合